CONTENTS

懐かしい情景を探して　出かけよう湧水浴に

Top Interview

2 福岡銀行
株式会社 谷ログループ　代表取締役
浅地 裕太郎 氏

8 熊本銀行
有限会社 親和商事　代表取締役社長
倉橋 篤 氏

14 十八親和銀行
株式会社 三基　代表取締役社長
山口 雅二 氏

20 地域とつながるFFG連携プロジェクト
“お取引先企業の生産性向上
(ロボット導入、デジタル化)に繋がる”取り組み

24 地域と共生するFFG
熊本県　阿蘇市

28 シンガポール駐在員報告
新型コロナウイルスに対応する
シンガポールの国家戦略とデジタル化

30 FFGの建もの探訪 NEW!
北九州市立戸畑図書館

36 START UP Company　株式会社 HAB&Co.

38 FFG BMS
有限会社 誠心会
吉良食品 株式会社
有限会社 伊東精麦所

40 九州まち歩き　熊本県　熊本市

42 経営者の課題解決の処方箋 NEW!
後継者対策について

48 地銀9行連携レポート　八十二銀行
「通年型マウンテンリゾート」を目指す
白馬エリアの取り組み

54 母校の逸品　久留米大学附設カレー

55 九州の星 Special 九州の三ツ星
ホテル日航福岡　池田 亮
熊本ホテルキャッスル　川上 洋信
ホテルニュー長崎　鈴木 智宏

バックナンバーのお知らせ　「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。

写真提供：九州産業交通ホールディングス㈱

今月の表紙　SAKURA MACHI Kumamoto（熊本市中央区）

表紙の写真は、商業施設「SAKURA MACHI Kumamoto」のストリートビューテラスの一角です。計画着手から5年の歳月を経て、昨年9月14日に様々な年代、目的・志向に応じた魅力ある幅広い業種のテナントが加わりグランドオープンしました。オープンからの10日間で累計100万人が来館。熊本桜町バスターミナル、ホテル、公共施設「熊本城ホール」を併設した、熊本市街地の新たなにぎわいを創出する複合型商業施設です。

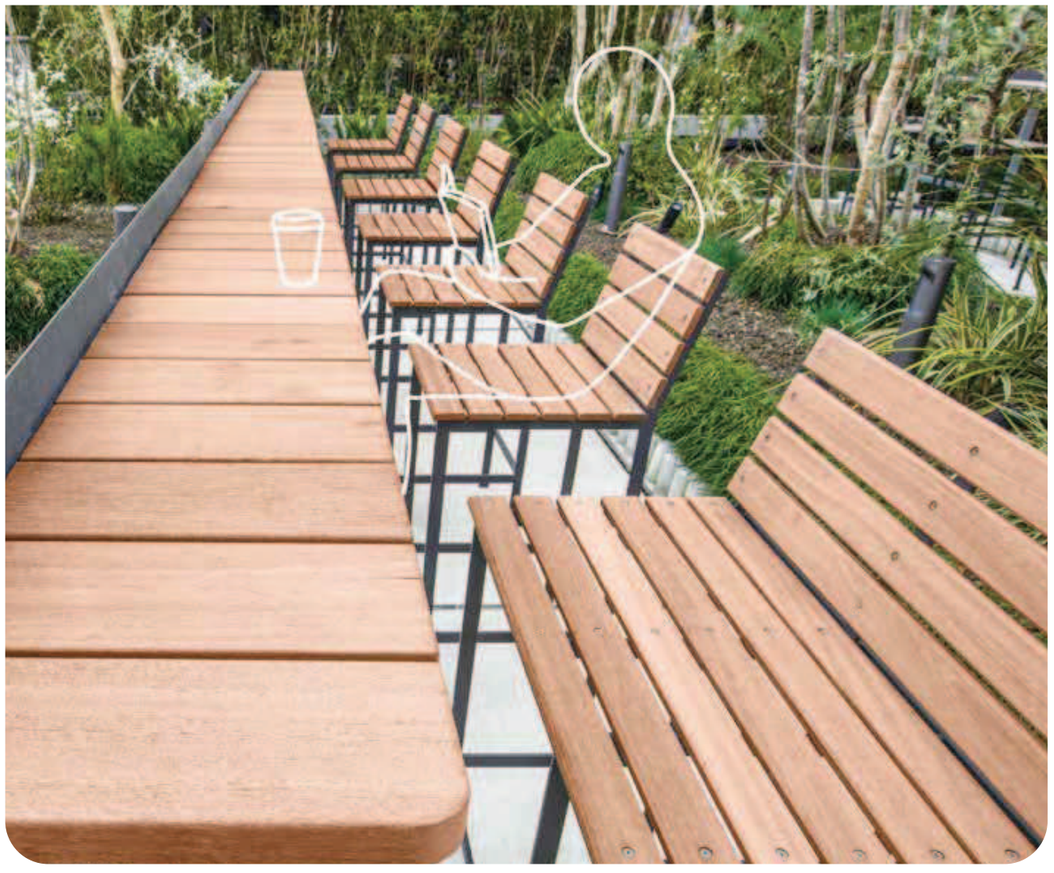
あなたのいちばんに。ふくおかフィナンシャルグループ

FFG調査月報
MONTHLY REPORT

11
2020.NOV
VOL.132

Top Interview
株式会社 谷ログループ　代表取締役　浅地 裕太郎 氏
有限会社 親和商事　代表取締役社長　倉橋 篤 氏
株式会社 三基　代表取締役社長　山口 雅二 氏

福岡銀行
熊本銀行
十八親和銀行



Top Interview
トップに聞く!

十八親和銀行

「共生」と「創生」をめざし 地域を支える事業を展開する。

株式会社 三基（さんき）

代表取締役社長
山口 雅二（やまぐち まさじ）氏

取引店／十八親和銀行 本店営業部 長崎営業部 福岡銀行 長崎支店

■会社概要

創業:1951年／**所在地:**長崎市大橋町／**資本金:**2,000万円／**従業員:**74名／**事業内容:**総合土木建設業（土木・建築・港湾）、バイオマスボイラー製造、埋蔵文化財発掘、太陽光発電事業／**事業拠点:**（本社）長崎市大橋町（支店・営業所）福岡支店、諫早営業所、島原営業所（工場）女神工場

会社ホームページはこちらからどうぞ!

本社前
（左から山口社長、森頭取）

港湾土木工事で創業
磨いた技術と堅実経営で拡大

当社は1951年、港湾土木工事を主体として第一歩を踏み出しました。創業時は「三基興業株式会社」という社名で、創業者である坂口義雄氏ら3人が、力を合わせて発展させようという願いを社名に込めたと聞いております。現在は「株式会社三基」と社名は変更していますが、原点を忘れないよう今でも「三基」という名前は残したままにしています。

多くの離島を抱えた長崎県は、北海道に次ぐ長い海岸線を有し、多数の有人離島があります。国・県も排他的経済水域の保全などの面から、港湾設備の整備に力を入れており、当社はこれら港湾関係工事によって業績を伸ばしてまいりました。

実は、私の父であり前社長の山口正人は、当社の創業時は在籍しておらず、長く長崎県庁の港湾課に勤務していました。退職後に大手海洋土木会社に転じ、業界でもその手腕が認められ、1973年に「経営を引き受けてくれないか」と要請を受けて「地元長崎を支える仕事がしたい」との思いで当社の代表取締役に就任した経緯があります。父は職人気質だったので常に技術を磨くことを考えていました。父の代から続いている浮桟橋の設置は当社の技術力を代表するものの一つで、大手企業と共同開発したコンクリート構造に発泡スチロールを内蔵する技術は、安価で耐久性に優れた浮桟橋の製造が可能となり全国各地で利用されています。このように磨き続ける技術と堅実な経営が評価され当社は徐々に規模を拡大しました。

現場で学んだ経験と養われた感性で事業の多角化へ

元々、私は会社を継ぐつもりがなくプロゴルファーを目指していました。大学生活はそれこそゴルフ漬けの毎日でしたが、猛特訓のおかげもあり、日本代表に選ばれて「アジアサーキット」などメジャーな大会へ出場を果たしました。しかし、世界トップクラス選手の実力を肌で感じたことでプロを目指すことに迷いが生じ、そんなときに父から入社をお願いされて悩んだ末に入社を決めました。

プロの道へは進みませんでしたが、ゴルフのおかげで築けた様々な分野の方との人脈と多様な考え方を学ぶことで養われた感性が、現在の私の経営スタイルを形成したと思います。また「ゴルフは人なり」と言いますが、相手のプレーを見ながら学ぶべき点や意外な面を知り、人を見る目が養われたことも経営に役立っています。

入社後、最初は総務部へ配属になりました。理由は会社を幅広く理解してもらうためだったそうです。総務部の後は現場への配属など広く経験を積み、副社長を務めるまでになりました。広く経験を積むなかで公共工事という「待ち受ける」仕事ではなく、こちらから「攻める」営業に変えたいとの思いが募り、最後は「技術力と人材を活用して事業を広げたい」と父に直接訴えました。そして、42歳を迎えた1997年に「それならお前が社長になって思うようにやれ」と言われ社長に就任。父は多くを語りませんでしたが、その時には私の仕事ぶりを認めてくれていたのではないかと思います。

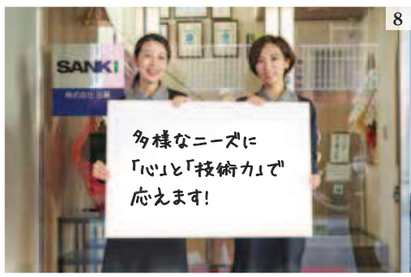
山口社長

培った技術と人材を活用して
文化財発掘からバイオマスまで発展

私が社長に就任してから現在までに、土木、港湾、建築、埋蔵文化財発掘、バイオマス、太陽光発電など6分野へ事業を拡大しました。

創業当時から続けている土木、港湾事業は技術を生かして長崎港の港湾施設整備、長崎市のJR長崎駅周辺土地区画整備などの工事を受注し、建築事業では長崎市の東長崎地区方面にあるマンションの新築工事などを安定して受注しています。

事業多角化の一環である埋蔵文化財発掘事業は、市から頼まれて、「グラバー園」の指定管理者になったことがきっかけです。当初は入場者が伸びず苦労しましたが、ドラマ「龍馬伝」や、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産登録へ認定されたことで長崎への観光客が増え、当社の集客努力も相まって来場者が増加し黒字で終えました。



1.対談風景／2.本社フロアを見学／3.施工実績：ハウステンボス長島浮桟橋新設工事／4.施工実績：長崎港松ヶ枝ターミナル整備工事／5.施工実績：アルバガーデングランビュー東長崎新築工事／6.コンクリートミキサー船「グラバー」を使用した港湾土木工事／7.バイオマスボイラー（長崎県西海市）と内部で燃焼する木質チップ／8.企業メッセージ

最前列左4番目から、山口希副社長、山口雅二社長、森頭取、小佐々本店営業部長（十八親和銀行）、前田長崎営業部長（十八親和銀行）

文化財に関わったことで学芸員の資格を持つ社員を養成できて、その当時に長崎の歴史について学ぶ出来事もあり、当社の技術も含め全てを生かすことができるものはないかと考えたときに埋蔵文化財発掘事業へたどり着き、現在まで続けています。

また、これからは再生可能エネルギーが重要になるという観点のもと、バイオマスボイラーの製造設置も行っています。元々は海外のバイオマスボイラーしかなかった時代にお取引先から国産はないのかというお問い合わせを受け、なければ作ろうということで開発へ動きました。地球温暖化の防止、循環型社会の視点から開発に着手し、独自の技術によってCO_2の排出を抑えて燃焼効率が高いバイオマスボイラーの開発に成功。生ごみや木くずなどの廃棄物を処理し、熱源は温水プールや温浴施設の暖房などに利用でき、長崎県内から福岡県、遠くは関東の自治体や農業関係法人などに納入しています。

事業拡大を続けていますが、全ての根底には創業当時から培った技術を生かせるかという考えが存在します。全くの他業種へのお誘いもあるのですが、当社には私の父である先代社長からいただいた「原点に帰れ」という言葉があります。この言葉通り、当社の原点は港湾土木工事の技術力と考えているからこそ事業拡大しても、その技術が生かせる事業のみを行っているのです。これからも原点を忘れることなく経営に邁進したいと思います。

「人」・「心」・「技」を融合し地域創生事業に取り組む

来年、当社は創業70周年を迎えます。少数精鋭による足腰の強い会社、働くことを楽しめる職場を目標にして、人材育成のため人事評価制度や資格取得をサポートし、有給休暇制度や育児・介護休暇制度など福利厚生も充実させています。最近では新型コロナウイルス対策として現金10万円を全社員に給付しました。

また、時代は大きく変わっています。AI、IOTが進展する一方で少子・高齢化が進み、長崎県では人口流出が深刻です。新型コロナウイルスの感染拡大によって、国や自治体の予算は感染症対策が優先され、土木・建設関連の予算が縮小すれば業界は大打撃を受けます。さらに生活様式の変化は社会全体に大きな影響を及ぼすでしょう。

当社は変化する時代にあっても創業以来のスピリットを大事にし、「人と環境の共生」をテーマに事業を進めています。すでに新しい時代を展望し「地域創生事業」を検討中です。その一つが全国の過疎地で増えている「廃校の活用」です。施設やグラウンドでバイオマスボイラーや太陽光を活用したエネルギー循環、陸上養殖、水耕栽培などによって働く場所と住みやすい環境をつくり、災害が起こった場合は避難所にします。当社が蓄積してきた総合的な技術をこの事業で活用し、誰もが住みやすい環境を提供することで、県外からの定住者の増加、そして働く場所が増えることにより、人口流出の歯止めの一助になれば嬉しく思います。

私は「従流志不変（じゅうりゅうこころざしふへん）」という言葉を座右の銘にしています。「時代の流れには従いながら、志は変えない」という意味です。「原点に帰れ」という父の志を大切にしながら、「攻め」の精神を持ち続け、時代の変化に応じて進化し続ける企業でありたい。そして、技術の新時代にあっても、創業当時から変わらない「心」を多くの方々にお届けする企業であり続けたいと思っています。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行　取締役頭取　**森 拓二郎**

港湾土木業から出発され、「人と環境との共生」をめざし、建築、バイオマスから埋蔵文化財発掘まで多方面で活躍されています。高い技術力と少数精鋭による堅実な事業は県内外のユーザーから高い評価と信頼を得ています。さらに、「人材」「心」「伝統と最新の技術」を生かした総合力で「地域創生事業」を試み、長崎の地域振興のため全力で取り組まれています。

来年、創業70周年を迎えられますが、これからも原点を忘れることなく挑戦し、「進化し続ける」企業として発展されることを期待しています。